

しづくらのいなか旅

project 2011

UEDA machi Miyoshi city, Hiroshima

い
な
か
の
な
か
の
い
な
か

人が人らしく暮らせる地域です。

近畿大学 久隆浩 教授

ワカモノが何人か連ろうてこの辺りを歩いとる、
それだけでワシら元気をもらうよのお。

上田のじいちゃん

あなたのいなか旅も、
教えてください。

近畿大学 大野 司郎 講師

「ぼくらのいなか旅」プロジェクトのながれ



サポーターの紹介

浦田 愛 つなぎ役



- 福岡県福岡市出身 / 上田町在住
- ほしはら山のがっこう 体験部長
- 上田町は私の大切なふるさと。この景観や暮らしをシェアしながら未来に引き継いでいける仕組みをワカモノと一緒に探りたい。

平田 智之 つなぎ役



- 滋賀県草津市出身・在住
- 近畿大学大学院 総合理工学研究所
- 大学生にとっても上田町にとっても、良い経験になってほしい。また、今回生まれた「つながり」が、今後も続いてほしい。

はしまり！！

大学生8人、上田町へやってくる！1回目のワークでは、2チームにわかれ、ヨソモノ・ワカモノの視点から「あるもの探し」を行う。またフィールドワークを生かし、ワカモノを対象とした「いなか旅」プランを企画する。全体を通して、地元住民との交流を図り、地域の個性を生かしたプランニングをする。



近畿大学で、愛さんとプロジェクトメンバー再会。ヨソモノ・ワカモノ視点から地元の面白さを伝え、またワカモノの「いなか旅」への関心につなげるため、冊子づくりを行う。

つづく・・・

大学生ふたたび上田町へ。2チームが企画を交換しあい「ぼくらのいなか旅」(1泊2日)体験。3日目、地元住民や担当教授、市の職員等に「いなか旅」の面白さや課題、可能性について、発表し、意見交換。



2011/09/16 ~ 19

Part 2

「フィールドワーク」

広島県三次市上田町

2011/10/07 ~ 09

Part 3

「ぼくらのいなか旅」

広島県三次市上田町

2011/12/15 ~ 16

Part 4

「冊子づくり」

近畿大学
本部キャンパス

檜谷 義彦

地元のサポーター



- 広島県の田舎出身 / 上田町在住
- ほしはら山のがっこう 理事長
- ワカモノはええの〜！！
活気がでる。わしらに知恵を
ぜひください！

金末 忠則

地元のサポーター



- 上田町出身・在住 (Uターン)
- ほしはら山のがっこう
事務局長
- ワカモノがやってくるような
旅プランを考えてみたいのお。

※「探られる島プロジェクト」(兵庫県姫路市家島町)では、ヨソモノである大学生を中心としたメンバーが島を探ることで「島に住む人が当たり前だと思っていた家島の風景に、他の地域にはない面白さがあること」に住民が気付くきっかけをつくった。その後、地域の特性を活かした住民の創意工夫による、住民主体のまちづくりの取り組み等がはじまり、様々な活動が起きている。アドバイザーとして、探られる島プロジェクトに関わった大学生などが関わっている。

上田町と、ほしはら山のがっこう

小さな山里 - 三次市上田町

上田町は、広島県三次（みよし）市中心部から約 20 キロ離れた小さな山村だ。標高 350 ～ 550mの谷沿いに集落が点在していて、それぞれ棚田や里山に囲まれている。むかしは麓のムラから細い県道をくねくね登らなくてはたどりつけない集落だったけれど、今は片側一車線の心地よい道ができています。

この町には、隣近所で支えあいながら半自給的な暮らしをしている家が多く、また、ほがらかで温かい印象の方が多いですね、とよく言われる。行事などのときには、酒をのみかわして打ちとけあい、地域のチカラにつなげている。

少子高齢化と小学校の閉校

こんな豊かな農村だが、やっぱり少子高齢化が年々深刻になり*1 集落機能を維持することが困難になってきている。町内にあった小さな個人商店 2店や市立上田小学校、私立（町内会運営）保育所が次々に閉じ*2「あきらめ感」や「誇りの消失感」にのみこまれそうになっている。

*1 2012 年 3 月人口 198 人のうち、65 歳以上の方が 111 人（高齢化率は約 56%）

*2 1998 年 1 商店閉店、2003 年小学校閉校（前年保育所閉所）、2004 年町内の十郎集落の常住者が途絶え、2009 年最後の商店閉店

自分たちの地域は自分たちで守りぬきたい

だが、この町には、古くから地域おこしの活動が活発で、自分たちの地域は自分たちで守ってきた歴史がある。

小学校廃校後も、いろんな方面からの支援を受けながら地域のチカラで、営農グループ「上田え～の～」や交流による地域づくり団体「ほしはら山のがっこう」をおこし、一步一步地道な活動をつづけている。

いなか × 交流 いなか × ワカモノの発想

ほしはら山のがっこうでは、2003 年から「ふるさと自然体験塾」として年間約 10 回の交流イベントを主催してきた。交流の中でいなかの良さを「外からの視点」を通してみつめる機会を得、地域に「誇り」が戻りつつある。2011 年度はじめ「未来の住人である若者とこれからの風土をいっしょに育てていけるような地域づくりをしたい」と夢を描き、ワカモノが訪ねてくる田舎を大学生たちと地域と一緒に企画する「いなか旅プランニング」が企画された。

旅するワカモノ

参加した大学生は8名。2つのチームにわかれて「いなか旅」ワークを行いました。

くま チーム



名前 高木 顕一郎
愛称 ぶ～
出身 滋賀県野洲市
所属 近畿大学大学院
総合理工学研究科

いなか度 地元は田んぼや畑ばかり。幼い頃の遊び場は川と林でした。
60%



名前 佐藤 慧
愛称 けいちゃん
出身 徳島県鳴門市
所属 近畿大学大学院
総合理工学研究科

いなか度 僕にとって「田舎に行く」には「家族に会いに行く」という感覚です。
50%



名前 上野山 温子
愛称 やまこ
出身 兵庫県宝塚市
所属 近畿大学大学院
総合理工学研究科

いなか度 郊外で育ちました。田舎へは年に数回、家族で旅行に行く程度です。
30%



名前 西田 春香
愛称 りんりん
出身 奈良県天理市
所属 近畿大学
総合社会学部

いなか度 家の周りは田んぼだらけ。稲刈り後の田んぼでよく遊んでいました。
45%

とり チーム



名前 石原 凌雅
愛称 りょーが
出身 京都府宇治市
所属 大阪大学大学院
工学研究科

いなか度 郊外で育ちました。最近では調査などで田舎に行くことが多いです。
60%



名前 小川 翔平
愛称 おが
出身 大阪府高槻市
所属 近畿大学
総合社会学部

いなか度 小さい頃から、田舎の親戚のところでよく遊びに行っていました。
50%



名前 正野 里沙
愛称 りさっち
出身 大阪府堺市
所属 近畿大学大学院
総合理工学研究科

いなか度 基本的には都会育ちですが、田舎の興味があります！
20%



名前 鎌田 沙紀
愛称 おとめちゃん
出身 大阪府吹田市
所属 近畿大学大学院
総合社会学部

いなか度 コンビニが頼りです。実は今回、初めて野菜を包丁で切りました。
15%



旅のコンセプト



恋する上田町。

旅人が上田町に恋するプラン

上田町の方々のあたたかさや優しさに触れ、おもてなしの心を大切にしたい人と人とのつながりを感じたならば、きっと旅人はこの町を好きになり、大切な友人にそのよさを伝えるでしょう。

また棚田の絶景や、沿道に植えられたコスモスなど上田町ならではの自然を体感したならば、きっと旅人はこの町に恋をし、再びここに足を運びたくなるでしょう。

この町ならではの「いなか旅」の思い出が、旅人から旅人へつながっていきますように。

「人」「自然」「つながり」に

恋をする2日間を
おすすしてください。



くまチームが上田町でみつけたもの

チームメンバーと上田町を歩きまわり、「あるものさがし」を行いました。そこで見つけたもの、感じたことを、コンセプトづくりに生かしました。

上田町の“人”のおもてなしの心

上田町を秋に訪れると沿道いっぱい咲くコスモスが迎えてくれます。誰かが植えてくれたようです。お客さんが多いのでしょうか？ お家を訪ね、玄関を入るとすぐに応接間があります。農作業の手を止め、初対面の私たちに、たくさんお話をしてくれました。お茶やお菓子、お手製のキューちゃん漬けを頂いて、組の仲

がいいとか、上田は自然がたくさんあっていいとか教えてくださいました。そのうち、ご近所さんも加わってよりいっそう賑やかに！

上田町にある五感で感じられる“自然”

雨の匂い、風の音、棚田の風景、柔らかい土の感触……。

この町の良さを知る人が集まる場、つながっていく光景



プランニング 1

いなか旅「恋する上田町」に行って来ました。

とりさんチームの体験レポート／企画：くまチーム



上田町の仲良しお母さん3人組と農作業をしました。

am10:30



里芋掘り体験。
虫の多さに私たち都会っ子はビックリ!!



pm12:30



景色がステキなところでお昼ごはんタイムです。



am11:30



水道管あたり遊び「誰か助けてー!」



採ってきた里芋を洗いながら、お母さん達とおしゃべり。



収穫野菜で晩ごはんづくり。



pm14:30



本格?焼き芋体験。



上田のお母さんたちと一緒に、感謝の1枚。



恋する上田町。



廃校になった上田小学校に
宿泊しました。



am7:00

日曜朝市の開店準備を
お手伝い。



開店早々、
この賑わい!

人のあたたかさ、自然の豊かさはどこにでもあります。

選ばれる場所になるためには、

人のつながりの、

つながりの、つながり……

これしかないでしょう。

この地域につながる「きっかけ」には、いろんな入口があればいいと思います。交流の分母が増え、この地域の定住希望者も増えよう。

近畿大学 久隆浩 教授



森のカフェ、ツリーハウス。

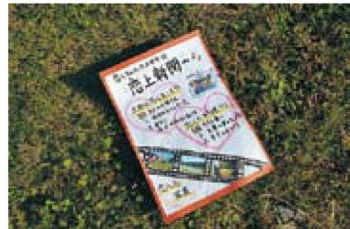
am9:00



お昼寝ならぬ、お朝寝(笑)



森のカフェで
朝食を作って
いただきました♪



最後のまとめ、「恋する上田町新聞」作り。



旅のコンセプト

タビものがたり

出会いあり、スリルあり、上田町で大冒険!

1. 交流

地域の人に
協力していただくプラン

2. 冒険

オンリーワンの体験
ができるプラン

3. 発見

上田町を歩いて自然や
ムラの良さを見つけるプラン

あなたが旅して生まれる

「オンリーワン」の

いなか旅ものがたりを

五感や

身体全体で味わいながら

おたのしみください。



上田ゆるキャラです!
タビのコースには、この絵が
ところどころに貼ってあります
ので、見失わないように辿り
ながら本日の民泊先のおうち
をさがしてください。

スリリングな「宿さがしタビ」+ミッションクリア
このプランのポイントは、何といても今晚の
「宿探し」です。道の途中には4つのミッション
を用意しています。挑戦しながらすすむことで町
の方々や交流したり、動物と触れあったり、自然
を堪能したりできるような仕掛けをつくりまし
た。歩き回って自分たちで宿を探そうスリル! ?も味
わいつつ、楽しく上田町の魅力を発見できます。

「民泊」でゆっくり交流

上田町の良さを感じてもらうには、地元の方と
じっくり交流するのが一番! 自家製の野菜を使っ
た晩ごはんをお家の方と一緒につくって食べた
り、お父さんの特技と一緒に体験させてもらっ
たり…。民泊でゆっくりとした時間をいっしょに過
ごす中で、きっと、より深いいなか旅を感じること
ができます。



「あるものさがし」



とりチームが 上田町で みつけたもの

いなかの自然と人のあたたかさの二重奏

私の住んでいる地域でも田んぼや空などを見ることはできますが、なかなかゆっくりと眺めることはありません。だからこそ、上田町ではたくさんの自然を眺めながらゆっくりとした楽しい時間を過ごせたのはよかったです。また、初めて会ったにも関わらず親切にいろんなことを教えてくださったり、話をさせていだいたりする中で、田舎の人々の心の温かさを感じることもできました。（おが）

まるでジブリの世界

上田町を歩いていると、見たこともないような大々きな葉っぱや、誰も住んでおらずほったらかしにされた空き家、アートのように美しく並んだ棚田な

ど、普段地元の大阪では絶対見かけないものの発見の連続で、まるでジブリの世界を探検しているかのような、とてもわくわくした気分になりました。

（おとめちゃん）

まるで村全体が自然の花壇みたい

上田町に訪れた思い出の一つに、たくさんの花に囲まれながら過ごしたことがあります。もちろん花屋さんで買ってきたのではないもので、しかも何十種類も。まるで村全体が自然の花壇みたいでした。ちょうど行った時はコスモスが見ごろで、ゆっくりと秋を感じることができました。都会では忘れがちな季節や自然の美しさを上田町でたくさん満喫することができました。（りょうが）



プランニング 2

いなか旅「タビものがたり」に行ってきました。

くまさんチームの体験レポート／企画:とりチーム

Mission 1

ヤギを4人で囲んでいる写真を撮れ、そしてそのヤギの飼主の生い立ちについて聞き出せ

宗片さん家のヤギ“さくら”とばちり。ヤギの他に牛や合鴨も飼っていらっしゃいます。家族を紹介してもらって、緑側喫茶で手作りお茶を頂きながらまったり。宗片さんの“農”についてのこだわりをお伺いしました。 ※ここまでで2時間半



Mission 2

この道を次の上田ゆるキャラまで全力で駆け抜けよ！

この辺りの民家1軒の晩御飯について調査せよ。

人や車を気にせず思いっきりダッシュをした後は、お堂を借りてお昼ごはん。都会にはない、ゆっくりし時間を満喫しました。

上田町に生息する動物とそれにまつわるエピソードを住民から聞き出せ！！

Mission 3

ここまでお疲れ様☆
今日は金末さんのお家で民泊を楽しもう！

民泊先の金末さん一家とご対面。
みなさん温かく
迎えてくださいました。

Mission 4





裏山で、なめ茸採りを体験させてもらいました！採ったなめ茸は翌日の朝おいしくいただきました。



金末さん宅の周りで秋探し。見つけた秋を、絵葉書にしました。上田町は、たくさんの秋であふれていました。

くまチームが上田町で民泊してみました。



上田町の朝市に潜入！地域のみなさんがまごころを込めて育てた新鮮なお野菜が地域の方から直接買えます！しかも安い。



最後にみんなで記念撮影！

- ・田舎だから楽しめた。
- ・民泊の居心地が良かった。
- ・時間が気にならなかった。
- ・癒された。
- ・人の暖かさに触れた。

ともだちに
上田を
薦めたくなった。

ぼくらのいなか旅

ぼくらが提案する

いなか旅のたのしみ方

1. 時計を持たない
2. 考えるより感じる
3. きっかけをつかむ
4. 視点を変えると発見が！
5. 「いただきます」が本気で言える体験
6. 好きな場所を見つける
7. 不便をたのしむ
8. お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんをいっぱい作る

ぼくらが、「いなか旅」で体験してみたいこと

いなかだからできること、いなかだから感じられること

たとえば・・・

- ・恋が生まれる時間を自然の中で過ごす。
自分たちが出会って恋が生まれた場所だから、上田町のファン・リピーターになると思う。
流れ星を見たり、たき火をしたりしたい。
- ・いなか料理の上手なお母さんやおばあさんと交流しながら習いたい。
- ・農業ちょっと体験。農業に興味はあるけど、はじめからガンガンにやるのは抵抗があるから。
- ・子ども時代にかえる体験。
子ども時代に田舎で育っていない人にとって、魚釣りなど子どもにかえられる旅は魅力
- ・宮崎駿監督の『となりのトトロ』に出て来るような風景がたくさんある。
その風景のところでトトロやメイちゃんなどのコスプレをして写真を撮ったりしたら楽しそう。
- ・上田町から、旅に来た人におたよりが来たら、また行きたくなるかも。
- ・旅に来た人が上田町をブログで発信して、そのお礼は地域の方の新鮮なお野菜やお米、というのいいと思う。

田舎とは、

現代の私たちの日常の中で

忘れてしまった何かを見つければ、

また成長するヒントが隠された

宝箱だと思えます。

今回のプロジェクトをとおして、

上田町の大自然や、人と人とのつながり、

温かさをどんどん活かし、

新たな視点から上田町の更なる魅力を見つけて、

いなか旅がふくらんでいったらいいなと

思いました。

私たちは、この旅の最終日に

スイセンの球根をひとつずつ植えました。

春、花が咲いた頃、

また来られたらいいな、という

想いからです。

また、コスモスを道端に植えて

心なごませていただいたことが

うれしかったからです。

お世話になったみなさん、

上田町のみなさん、

また帰ってきたときには

よろしくお願ひします。

その日まで、どうぞお元気で過ごしてください。

地元生まれ・育ち・Uターン

金末 忠則

三矢市上田町出身

田舎から見た都会は？

都会に行くと、なんかね、劣等感を感じるんよ。いろんなものが分かんじやない。全てシステム化されとる感じがするけえ、都会に順応せんといけん。一番不安なのは、時間軸がもしれん。全ての周りのものがすごく大きくて偉大な感じがするじやない。自分の存在感が小さい感じがして劣等感を感じるんよの。そういうものが昔は憧れだった気がするが、今は憧れでなくなっただけや。刺激があるが。

ワシが都会に入っただ頃は、物質的なものに価値を見出したんがもしれん。電化製品でもマンション住まいにしても不便を感じとったものが満たさ

れるじやない。じゃが都会には都会の不便さがある。例えば、文字標識どおりにとどいたら、いけるけど、コミュニケーションはサインとかボードとか。会話しながら生活していくことが少ない。田舎は人とのつながりで生きていくじやん。田舎には無駄がある。ワシには無駄が心地いいんかもしれんよ。何の対価も期待できんが、今日一日終わって楽しかった、顔色がいいという、対価を求めない暮らし、そういうのが田舎のいいところじやろうの。

いなか度は？

ワシのいなか度は、自分の人生観をみれば80%。あとの20%は、田舎では満たされない食文化、デザイン、音楽などのカルチャー。美しい女性もあるかもしれん(笑)。たまに都会に行くなら、むしろチョイチョイ

入っただ頃は、物質的なものに価値を見出したんがもしれん。電化製品でもマンション住まいにしても不便を感じとったものが満たさ



Hinokidani

Kanesue

特別 コラム

田舎からみた 都会って？

行つてみたいところ。暮らすことを考えたときは、自分のリズムには合っていないと思うし、「住む」基盤を築くところには捉えられなかったんよの。刺激があつておもしろいけど。

田舎生まれ・育ち・

妻の田舎に？ターン

檜谷 義彦

山形県豊平町出身

田舎から見た都会は？

ワシ、田舎が好きじゃけえ、まあ、どう言ったらいいんかな。騒音とか人ゴミとか私の生活には馴染まない。自然が好き。それがないと生きていけない。

昔、広島のと真ん中で「シティーボーイ」だったんよ(中心部の商店街に勤務)。都会におった頃も、広島エコークラブ(やまびこ)に入っ、山に行ったり合宿したりして、やっぱり山が好きじゃったんよ。未だにスキーとかアウトドアとか

が好きなんよ。都会が肌に合わなかったんじやろう。都会に馴染めずに田舎に遊びに行きよつた。やっぱり自然の方が好きなんじやろうの。

いなか度は？

ワシのいなか度は、95%。あとの5%は、どう言っのかなあ、都会が好きなどてるもあるけえ。映画を月にいっぺんは見に行きたいとか。そういったものは田舎にはないし。この間、広島市で『農家の食卓』(国立ファームの運営しているレストラン)に行つたんじやが、あれは都会じゃけえで、あんなに。人がいっぱいおるけえ成り立つ。じゃが、田舎があるけえ、『農家の食卓』は成り立つとるんよの。

そういう感じで、ワシは口で表すのは苦手じやが、自然がやっぱり、ええじやろうと思うよ。

出演

平田 智之
高木 顕一郎
石原 凌雅
佐藤 慧
上野山 温子
正野 里沙
西田 春香
鎌田 沙紀
小川 翔平

特別出演

浦田 愛
金末 忠則
檜谷 義彦

友情出演

ほしはらスタッフのみなさま
地域おこし協力隊
上田町のみなさま

スペシャルサンクス

近畿大学総合社会学部 久 隆浩 教授
近畿大学総合社会学部 大野 史郎 講師
近畿大学総合社会学部 田中 晃代 講師

企画・制作

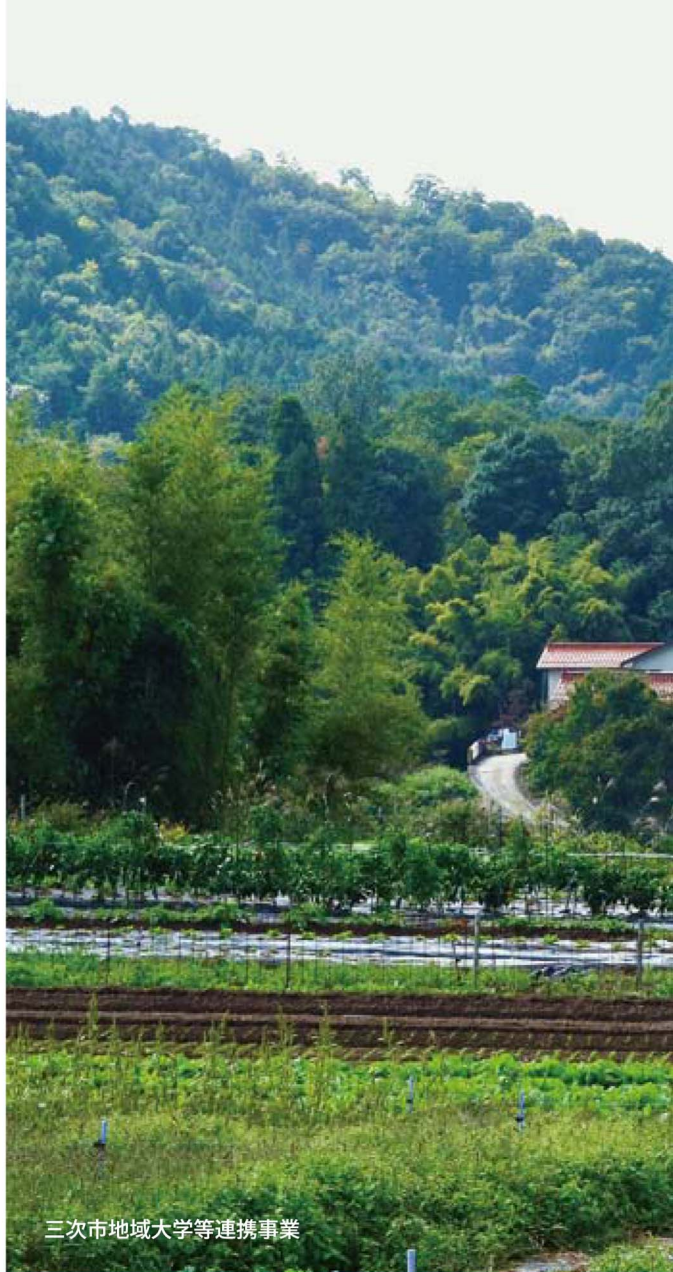
ぼくらのいなか旅 学生メンバー
ほしはら山のがっこう

編集長

佐藤 慧

発行元

ほしはら山のがっこう



三次市地域大学等連携事業

力を与えてくれた
すべての人と自然に感謝

プロジェクトに参加した理由・・・

- 都会の生活につかれてきた
- 大学の先生に紹介された
- ともだちのススメ
- 田舎の小さな学校が見てみたかった
- まちづくりに関心がある
- 自然がいっぱいという言葉にひかれて
- 恋をもとめて